

【教科】道徳科

【学習者】5年1組

【授業者】西澤 千織（5年1組担任）

【主題名】

公正・公平な社会とは

【教材名】

わたしとあなたの「ふつう」はちがう

【ねらい】

一人一人の違いを理解し、尊重し合うことの大切さに気づき、自分の考えや行動を見つめ直す。

内容項目

C 公正・公平・社会主義

【本時のねらい】

みんなが感じている「ふつう」について考えることをとおして、一人一人の違いを理解して尊重し合うことの大切さに気づき、自分の考えや行動を見つめなおす。

【本時の評価基準】

一人一人の違いを理解して尊重し合うことの大切さに気づき、これからの自分の考えや行動について考えることができているか。

九月二十日

ふつうって、なに？

・みんなと同じ ・ほとんどの人の考え
・いつもと同じこと ・あたりまえ

めあて 「ふつう」について考え直そう。

わたしたちが考えている「ふつう」

○自分の呼び方 ○ランドセルの色

○着ている服 ○日傘を使う人

○好きになる相手

いろいろな人の「ふつう」

○国によって違う ○仕事によって違う

○体によってちがう（しょう害があるかないか）



★あらためて…「ふつう」って、みんな同じ？

・みんなにとってちがう「ふつう」がある。

・人の環境とか、住んでいるところとか、経験で

「ふつう」は変わる。

それぞれの「ふつう」があるから、誰かが決めた
り押し付けたりするものじゃない。

さいごに

それぞれの「ふつう」をもつみんなと、幸せに

生きていくために大切なことは何だろう。

これからは、どうやって生活していきたいですか。

まとめ

○学習をまとめ、これから自分がどのように生活していきたいか考える。

10分

☆一人一人の違いを認め、尊重し合って生きていくことの大切さに気づき、自分の考えや行動を見つめ直している。（ワークシート）

展開

○普段の生活の中にある「ふつう」を振り返る。
○いろいろな人の「ふつう」について考える。
○もう一度「ふつう」とはどういうことか考える。

25分

・教師が提示するテーマを基に、無意識に決め付けている「ふつう」に気付かせる。
・動画を活用し、国や立場、環境など人によって様々な「ふつう」があることに気付かせる。
・最初に考えた「ふつう」と比較して、考えの変化を捉えさせる。
・一人一人にとっての「ふつう」があり、誰かが決めるものではないことを抑える。

導入

○「ふつう」とはどのようなことか考える。

10分

・教師の経験を例に、自分たちが使っている「ふつう」の意味を考えさせる。

学習過程

学習活動

時間

・指導上の留意
☆評価方法（観点）